

仮面ライダーになって  
転生しちゃったんだZ  
E☆

かあとなは

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

作品のあらすじ

神のミスで

走行中のトラックに引かれ死んでしまった

主人公は男の“娘”になって転生してしまった

彼は転生後の人生をどのように送るのか…

どうもかあはたなです。

この小説には以下の注意点があります

作者が初投稿

原作改変

作者のメンタルは紙メンタル

駄文

作者の妄想全開

作者の自己満足小説

以上が許せる人だけ読んでください

# 目次

第0話	転生	1
第0・5話	設定	6
第1話	一夏救出劇	11
第2話	原作介入	16

## 第0話 転生

「どこだこは…」

気がついたら知らない場所にいた

辺り一面白白白！… 全くと言っていいほど殺風景だ

「気がついたかい？」

謎の声がこの謎な空間に響く

俺「誰だ!!」

「神でーすよろしくう (≡▽≡) b」

…

しばしの沈黙

(うぜえ)

「酷い (T | T)」

「うるさい！て言うか心読めるんだ」

「まあねでもいいじゃん？ どうせ転生する訳だ「ちよつと待て」…何？」

不機嫌そうに言う神

「転生ってどうゆうことだ説明してくれ」

「ああそうだったねよし分かった説明しよう… 君は死んだんだよ」

「… 死因は？」

「トラックに跳ねられて即死… その事に関してはごめんねこっちのミスなんだゞ（・

ω・、；）ノあわわ」

「そうかまあいい… ちなみに何処の世界に？」

「インフィニット・ストラトスの世界だよ特典は今から決めてもらおうからねゝ数はいく

らでもいいよ（≡▽≡）b」

「そうか、それなら」

すべての平成ライダーと平成ライダーの怪人、オリジナルの仮面ライダーとオリジナルの怪人に慣れるようにしてくれ、それと性別は男で原作介入できるようにして、ライダーになる上でのリスクをなくしてくれ」

「リスクってのは（？。？；）？」

「913の灰化やブレイドのアンデット化とか」

「なるほど後はゝ（ゝ。ゝ；）？」

「仮面ライダーゴーストの黒電話と、財団の会長になりたい財団の名前は『仮面ライダー

財団』で頼む」

「分かったよん♪後は〜？」

「幼少期から財団会長ということで頼むそれとカブトの天道総司レベルのハイスペックにしてくれ」

「OKOKゞ(○・▽・○)ノそれだけでいい？(\*・ω・)ノ」

「ああ十分だ」

「それじゃあ転生しようか」

俺の前にゲートが現れる

「このゲートをくぐり抜けると転生できる」

「そう言えば」

「？」

「お前の名前って何なんだ？」

「無いんだ〜」

「そしたら俺が名前つけていいか？」

「じゃあお願い」

「う〜んそしたら…」

「神月零子（しんげつれいこ）なんてどうだ？」

「うんいいねありがとうそしたらもう転生しようか(≡▽≡)」

「分かった何から何までありがとうな」

「優しいんだね……」

「何か言ったか？」

「な、何でもないよ！（△、ノ）  
？」

「さあ行きなよ（ω・）」

「おう！」

俺はゲートをくぐり抜ける

一方神は

「ありがとう……ありがとうかあ」

と呟いていた

次回へ続く

次回予告

「お前は何なんだよ!!」

「僕は……仮面ライダー……」



「カッコイイ.:」

次回 第1話 一夏救出劇

ウエイクアツプ！運命の鎖を解き放て！

## 第0・5話 設定

### 第0・5話 設定

神月零花（しんげつれいか）

仮面ライダー零（かめんらいだーゼロ）

今作の主人公

神のミスで死んでしまい、isの世界に転生した。

その時特典を神からもらう

もらった特典は

- ・ 全ての平成ライダーと平成ライダーの怪人に慣れるようにする
- ・ オリジナルライダー、オリジナル怪人に慣れるようにする
- ・ ライダーになる上でのリスクをなくす（913の灰化、プロトイクサの時間制限など）
- ・ 天道総司レベルのハイスペック人間にすること
- ・ 財団の会長になること財団名は『仮面ライダー財団』
- ・ 仮面ライダーゴーストの黒電話

など

容姿はいわゆる男の娘で髪の毛のいろは金

その容姿のせいでよく女と間違われるため街中でナンパされる事もしばしば

仮面ライダー財団会長で財団には子会社も

たくさんあり、傭兵部隊 NEVER や

大企業 DEVELOPMENT & PIONEER (D & P)、

スマートブレインなどがある。

おつちよこちよいな部分もあり、

イクサベルトを間違って

プロトイクサのベルトを持ってきていたりもする

(第1話)

性格も転生前と変わっており、

興味を持った物はとことん首を突っ込んだり

一夏を救出する時はドイツ軍に情報を流していたり

ならべく原作改変をしないように動いたりもする。

ただ興味を持たない、いわゆる普通の時は

とんでもなく周りに無関心で嫌いな人には

驚くほど辛辣な態度を取る。

部下には親身になって接しているため、財団内では

人望が厚いが財団外ではつまらない奴と思われがちである

塔のような場所に住んでいて

その内にはたくさん本がある。

神月零子（しんげつれいこ）

神（かみ）

仮面ライダーファム（かめんらいだーふあむ）

零花を転生させた神

名付けたのは零花で零花のことが好き。

織斑一夏（おりむらいちか）

神月名切（しんげつなきり）

仮面ライダージョーカー（かめんらいだーじょーかー）

原作の主人公。

イケメン（で強いよね！嫌いじゃないわ！）、家出をして零花の家に、零花と家族になる。

その時名前を変えて神月名切になる。

零花にベルトを貰って変身して以来、

仮面ライダーとして悪行を犯した怪人から人々を守っている。

篠ノ之箒（しのののほうき）

原作のメインヒロイン

今作では二春の彼女として扱われている。

織斑二春（おりむらにはる）

オリジナルキャラクター

いいやつだが時々爆弾発言をすることがある。

しかし本人は自覚が無い様子

一緒に居ると楽しいかったりする。

原作の一夏の立場。（ハーレムはない）

織斑千冬

織斑二春の姉であり名切の元姉

元ブリュンビルデ

零花達1年1組の担任

人外。

山田真耶（やまだまや）

1年1組の副担任

元日本代表候補生

クラスの人達からは、『山ちゃん』や『山ぴー』と

呼ばれ親しまれている

威厳がないかわいそうな人。

# 第1話 一夏救出劇

## 第1話 一夏救出劇

ドオン

あるドイツの廃工場で大きな音がなる

そしてその1時間くらい後

その廃工場はドイツの地図から跡形もなく…

まるで“最初から何も無かった”かのように“消え去った”

原因不明な事件として世界各国で大きく取り上げられた

この事件にはある男の“娘”が

大きく関わっている事も知らずに…

零花視点

拉致された織斑一夏を助けるために

僕は今ドイツの廃工場にいる

ドイツ軍にある廃工場で織斑千冬

の弟が拉致されていると言う情報を流して

「お邪魔します」

【ドオン】

大きな鉄の扉を蹴破り

工場に入っていく

しばらく歩いていくと

縄で縛られている織斑一夏と

下っ端であろう4人の男、そしてリーダー格の女がいた

そして男達が僕に襲いかかってきた

男達の攻撃を難なくよけ、

右手に持っていた

イクサナツクルを左手に押し当てる

Le・Di・i

イクサナツクルをイクサベルトに装着

「変：：身」

h x i ・ s u ・ t o ・ o n

その古めかしい音声の流れると… 白い戦士イクサがいた



だが僕はある”失敗”を犯したそれは  
その失敗とは…

「これ…プロトタイプなんだよね…」

そう、間違っ

て  
プロトイクサのベルトを持ってきてしまったのだ  
本来プロトイクサは武装が少なく、  
時間制限や体への負担もある。

幸い体への負担や時間制限は無いのだが  
いかんせん武装が少ないのが痛い  
戦い方が見切り安くなってしまう

だがプロトタイプだと分かると敵は余裕になる  
それが彼らの失敗… 敗因になることも知らずに…

三人称視点

男達が余裕を取り戻し、

男の一人がプロトイクサに殴りかかる！

しかしプロトイクサは男の攻撃をもともせずよけ、

そのガラ空きになっている顎を殴り飛ばす!!

すると「グキイ」彼の顎から嫌な音がする

そう、顎が砕けたのだ他の男達は

プロトイクサに腹へのパンチや首

への手刀などをされて気絶した

そしてリーダー格の女は

「ヒイ…… やめろオ…… こないでえ」

恐怖していたそして女が恐怖の中振り絞った言葉は

「おおお前は何なんだ!」

と相手の正体を突き止めようとする言葉だった

「僕は…… 仮面ライダー……」

それだけ言うとプロトイクサは女を殴り気絶させた

零花は変身を解き少年が縛られている縄を取った

そして少年……

いや織斑一夏が縄から

とき放たれた事を確認すると

そのままどこかに行ってしまった

そして縄から解き放たれた一夏の第一声は…

「カッコイイ…」

あの自分のために戦ってくれた

『白い戦士』に憧れる気持ちのこもった言葉だった

次回に続く

次回予告

「神月名切です！」

「… 神月零花です」

「キヤーーーーー」

次回 第2話 原作介入

## 第2話 原作紹介

第2話 物語の始まり

名切視点

「はあ」

ため息が出る。

周りに女子しかいないなら誰しもそうだろう…

実際にそうなったら理解できるはずだ…

周りの視線が痛い…嫌になるな。

零花視点

始業のチャイムがなった。

S H R始まる。

だが関係ない、構わず本を読み続ける。

しばらくすると教師と思われる女性が教室に入ってきた

…が女性と言うより少女だった…豊満な胸以外は。

クラスの全員の自己紹介が始まった。

さて今、自己紹介が名切の番なのだが  
緊張しているのか反応が無い……

副担任の山田真耶が大きな声を出したところでようやく気が付いたようだ。

「し…… 神月名切です！」

それだけ？

「い…… 以上です！」

それだけだった

そう言えば織斑二春とか言う奴も

同じ自己紹介をしてたな……

僕の番になった。

自己紹介はして置こうと思ひ席を立つ。

「…… 神月零花です。趣味はお菓子作り、年は17、

好きな物は甘いもの、嫌いなものは…… 特にないです。皆知っているように、世界で

3人しかいない

i sの男性操縦者です、よろしくお願いします。」

……しばしの沈黙そして……

「キャーキャー」 大きい叫び声だった

「カワイイ系男子！」

「生まれて来てよかった！」

「お母さん生んでくれてありがとう！」

何なんだ？このクラスは… それと最後の奴、

お前はもつと母親を大事にしろよ…

面倒くさい… まあ発表したのは僕だし、

仕方ないけど…

…

あまりにも面倒くさいので休み時間まで

時間を飛ばした僕だ

「ちよつとよろしくって？」

「んあ？」

「まあ！何ですか？そのお返事！」

私に話かけられるだけでも光栄ですのに！」

「いや、君、誰だよ」

「私を知らない？セシリア・オルコットを？イギリスの代表候補生で入試主席の私を!？」

「知らないって言ってるでしょ？」

「さっさとどっか行つてよ」

「何なんですか？ だいじょく」  
「キーンコウカウコウ」話の続きはまた改めて！ 逃げない  
ハハハ」

「二度とこないで！」

「授業を始める前にクラス代表を決める自薦、他薦は問わない誰かいないか？」

「はい！ 私は零花君を推薦します」

「私は名切君を」

「じゃあ私は織斑君を」

「この言葉を皮切りに私も、私もと、

次々に男子に票が集まる。

「他にはいないのか？ いないなら3人のどちらかになるぞ」

「納得がいきませんわ！」

「そのような選出は認められませんわ！ 男がクラス代表何ていい恥さらしですわ！ このセシリア・オルコットに一年間そのような屈辱をあじわえと

仰るのですの!?! 大体、文化としても後進的なこの国に住むこと私にとって耐え難い苦痛だ「イギリスだつてたいしてお国自慢ないだろ、世界一不味い料理何年間覇者だよ」私

の祖国を侮辱しますn」「言うかそこまで言う前に自薦すればいいだろ」「同意見」っ！  
決闘ですわ！」

「おおいぜ」

「いよ」

「構わないよ」

「では、決闘は来週放課後に第三アリーナで行う

神月兄弟、オルコット、織斑はそれまでに準備をしておくように。では授業を始める」

次回に続く

次回予告

〈バッチリミナ〜〉

「変身」

「なんですの？ 貴方の機体は！」

次回 第三話 ヘンシン！ オレ、ダイカイガン！

命、燃やすぜ！